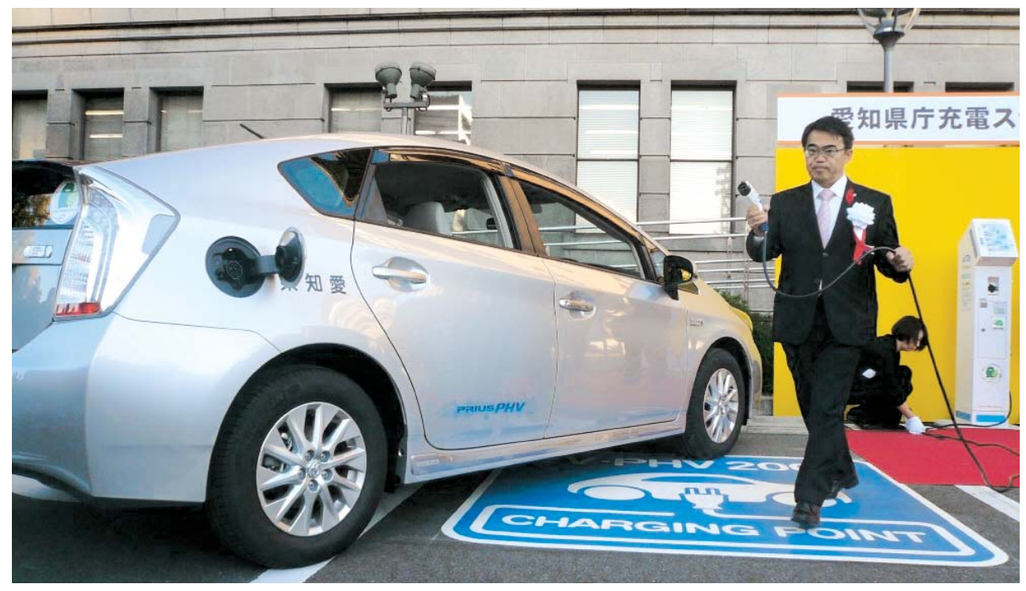
次世代産業育成 行政の動き活発に

産業用に広く開放している「あいち シンクロトロン光センター」

移動式水素ステーションが県庁内で運用を始める

県庁内にＥＶ・ＰＨＶ用充電ステーションを設置した



愛知県では次世代産業を育成する動きが活発になっている。主力産業の自動車では電気自動車（ＥＶ）やプラグインハイブリッド車（ＰＨＶ）のほか、市販を間近に控えた燃料電池自動車（ＦＣＶ）を含めたエコカーに関するインフラ整備が加速。県と産学の共同研究開発プロジェクトの拠点「知の拠点あいち」では、超微細領域の計測分析が可能な施設の拡充が進んでいる。自動車・航空機に次ぐ県産業の柱としてロボット産業を振興するプロジェクトも始まった。

エコカーのインフラ整備

日本の先導役に

共通課金システム実現へ

1枚のカードで

「環境対応車が多い地域を率先して作っていかなければならない」―。11月4日。名古屋市中区の愛知県庁内で開いた「愛知県庁充電ステーション」の開所式で、大村秀章愛知県知事はこう決意を語った。自動車保有台数と道路延長距離が日本一の愛知県。エコカーの普及に向けて、日本を先導する役割を自任する。その一環として力を入れているのが、充電インフラの拡充だ。

県はこれまでもＥＶ用の充電器を置く企業などに手厚い補助金を出すなどして、整備を促してきた。その結果、10月10日時点で県内の充電器の設置台数は１１０７基で全国トップ。今回は「もっと増やしていきたい。まずは『隗（かい）より始めよ』だ」（大村知事）と県庁内の設置に踏み切った。

愛知県庁充電ステーションはあるものの、都心部では公道から8㍍以上ディスペンサーを離すなどの規制があり、整備が進んでいない。移動式ならばこの規制をクリアできるため、スペース確保が困難な都心部でも運用が可能になる。県は移動式を使ったモデルケースを提示し、都心部における水素ステーションの整備促進につなげる考えだ。

県内企業に開放

県内企業の先端技術の研究開発をサポートする点にも余念がない。県は知の拠点あいち（愛知県瀬戸市、同豊田市）に開設した超微細領域の計測分析ができる施設「あいちシンクロトロン光センター」の増強にとりかかった。

高速でほぼ直進する電子の進行方向を電磁石で変えた際に発生するのがシンクロトロン光。同施設はこれをナノレベル（ナノは10億分の1）の超微細領域の計測分析に活用して、結晶の並び方や分布などを調べられる。同様の施設は他にもあるが、学術利用のためではなく、産業利用に向け県内企業に開放しているのが特徴だ。

13年3月の開設以降、6本の共用ビームラインを供用し、県内企業の研究開発を支援してきた。15年4月には2本増設し、運用を開始する予定だ。アルミニウムやマグネシウム、たんぱく質など既設のビームラインでは計測が困難だった物質の研究をカバーするのが狙い。これにより、県内企業の研究開発の幅がさらに広がりそうだ。

移動式水素ステーション

都心部の運用モデルに

工場で水素補充

トヨタが世界に先駆けて近く市販を始めるＦＣＶについても、県は水素充填（じゅうてん）の拠点となる水素ステーションの整備を推し進め、普及を後押しする。まず、２０１５年1月に県庁内に移動式水素ステーションの運用を始め、ＦＣＶに有料で水素を供給する。県庁内に移動式を設置し、商用サービスを提供するのは全国の自治体で初めてだ。

移動式水素ステーションはトラックの荷台に水素を充填するディスペンサーなどを設けた。ステーション自身への水素補充は水素工場に移動して行う。

県内に稼働中の水素スステーションはあるものの、都心部では公道から8㍍以上ディスペンサーを離すなどの規制があり、整備が進んでいない。移動式ならばこの規制をクリアできるため、スペース確保が困難な都心部でも運用が可能になる。県は移動式を使ったモデルケースを提示し、都心部における水素ステーションの整備促進につなげる考えだ。

ロボ

集積推進へ 協議会設立

国に働きかけ

次世代産業の新たな柱作りも進む。県は次世代自動車や航空宇宙分野を産業振興策の中心に据えているが、これからはロボット産業育成も強化する方針だ。18日には県内のロボット産業の集積に向けた組織「あいちロボット産業クラスター推進協議会」を設立。ロボットの研究開発や事業化の課題解決、産業拠点形成に向け協議を始めた。

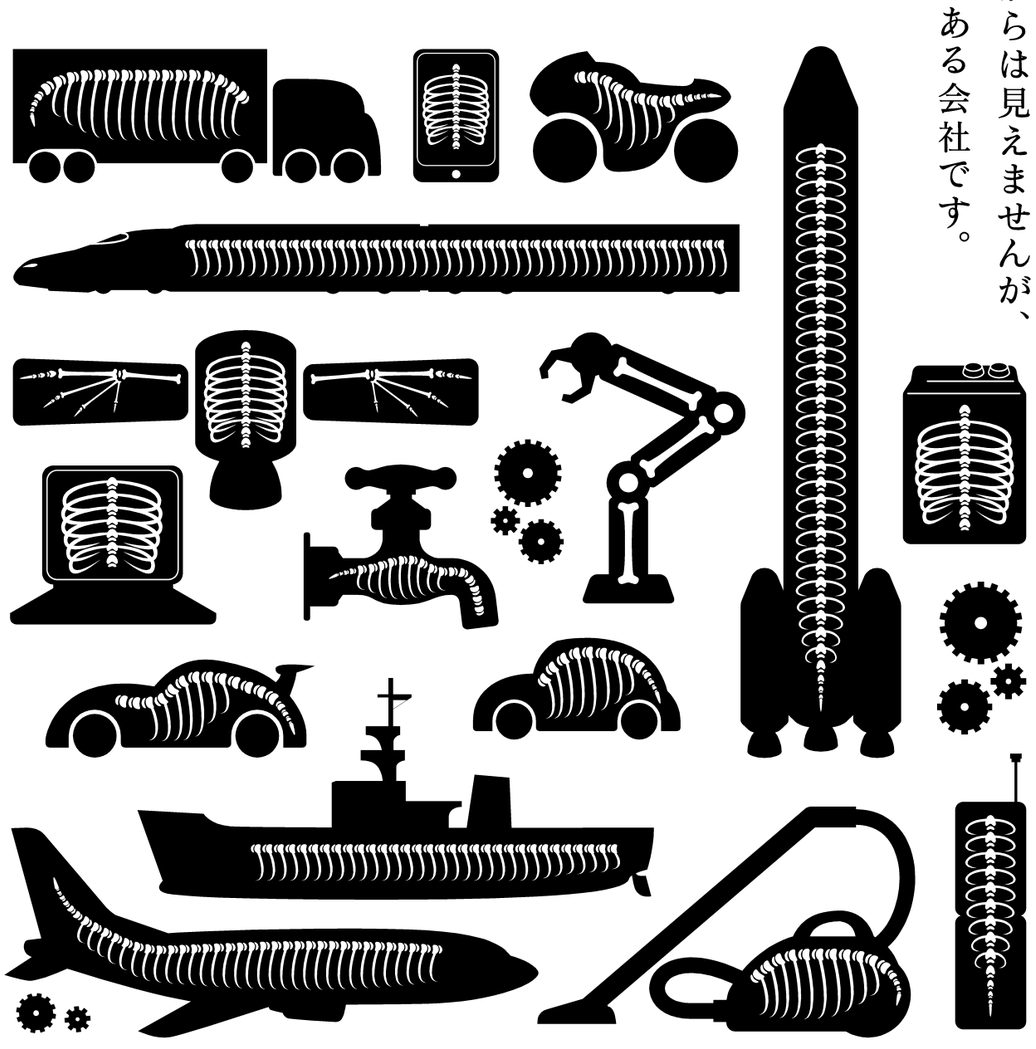
協議会では設計段階からロボットの開発側と利用側が参画して製品を開発する仕組みを構築する。利便性、安全性、費用対効果といった課題を研究し、必要に応じて安全評価基準の制定などを国に働きかける。開発者、利用者双方から会員を募集し、製造、医療・介護、農業など活用分野別にワーキンググループを立ち上げることも検討している。

出荷額は全国一

県のロボット出荷額は国内シェア約25％と全国一。15年4月には安川電機が、実機を使ったデモやテストを通じてロボットの理解を深められる場「中部ロボットセンタ」を県内に新設する計画だ。

大村知事は「（ロボットの）開発側も利用側も（愛知県に）最大の集積がある。それを我々が結びつけることで、いろいろな課題を議論し、国や関係者に提言し、具体化していく」と意気込んでいる。

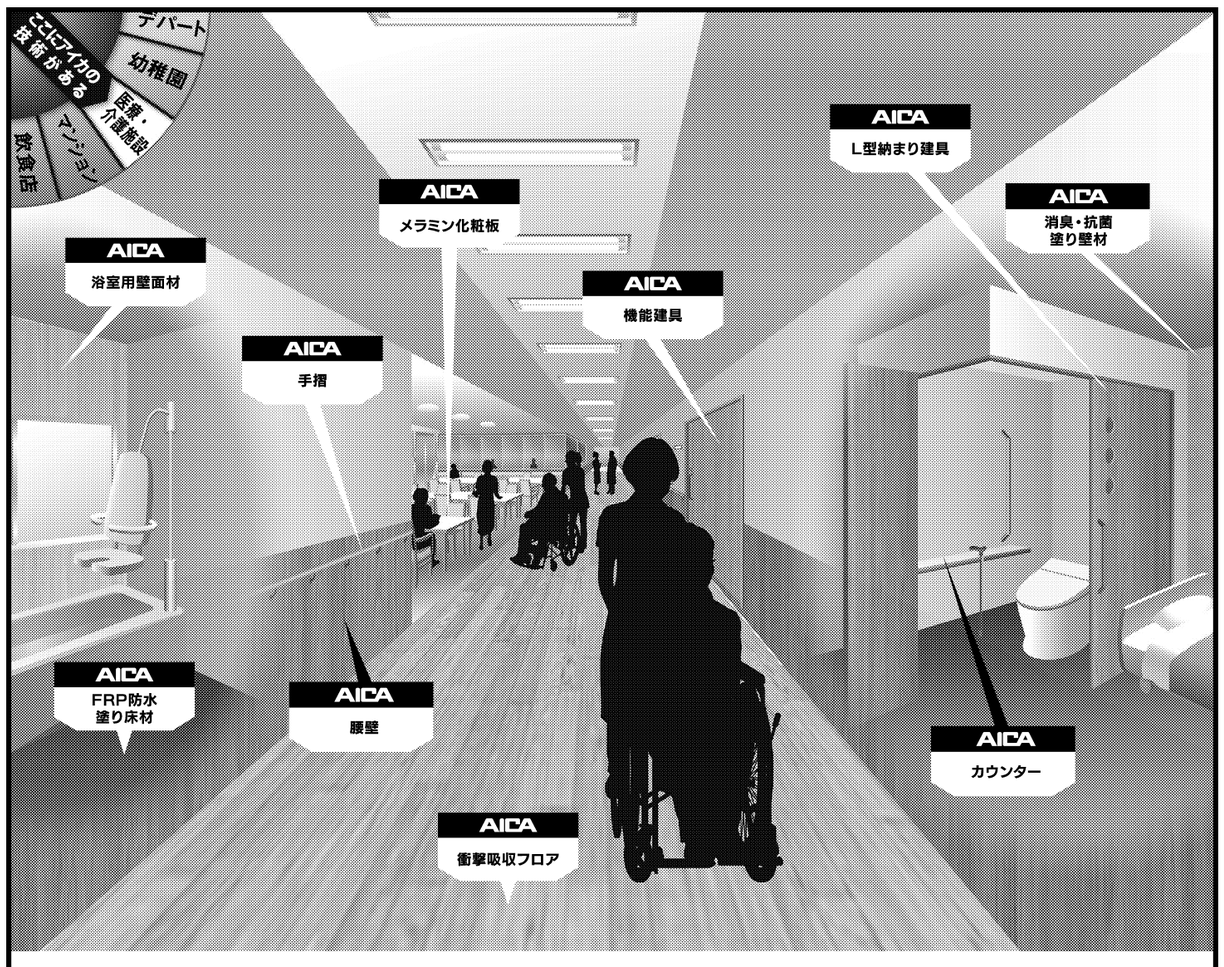
外からは見えませんが、骨のある会社です。



多彩なフィールドで、フロンティアを目指しています。

大同特殊鋼の素材は、自動車や航空機等の輸送機械をはじめ、家電製品や情報機器、産業機械など、暮らしや産業を支える多彩な製品や部品に使われています。私たちの使命は、素材の力で新たな価値創造に貢献すること。これからも独創の技術で、さらなるフロンティアを目指します。

大同特殊鋼



すべての機能は思いやりの発想から。
医療・介護施設で「アイカの技術」が活きています。

医療・介護施設にとって大切なもの、それは思いやりの発想です。アイカでは施設を利用する方々の視点で、利便性や清潔性、デザイン性にこだわった商品を豊富にラインアップ。2面開口で介助スペースが広がるL型納まり建具をはじめ、消臭・抗菌塗り壁材やメラミン化粧板、衝撃吸収フロア、手摺、機能建具など、思いやりをカタチにした多彩な商品で快適・安心な空間づくりをサポートします。医療・介護施設をもっと人にやさしい環境に。あなたの暮らしのそばで、アイカの技術が活きています。

AICA アイカ工業株式会社　〒452-0917 愛知県清須市西堀江2288番地 TEL（052）409-8000（代表）
http://www.aica.co.jp